

2 産業振興

～農業・漁業、商工業などの産業が活発なまち

<A 基本計画の目標>

農業・漁業の経営安定と後継者の育成に努めます。
 地域に即した都市農業・沿岸漁業の振興をめざします。
 土づくりなどを通じて環境にやさしい農業を進めます。
 魅力ある店舗とにぎわいのある商店街づくりを支援します。
 製造業や新規成長産業（医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など）の集積を進めます。
 中小企業の創業、経営安定、経営革新を支援します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	30.7 %	43.0 %	44.0 %	42.9 %	45.9 %	↑

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【市民活動部】	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 市内の創業予定者及び新規事業に取り組もうとする中小企業者を支援する制度「鎌倉市商工業元気アップ事業」を実施し、2事業を認定、補助金を交付するとともに、市広報、ホームページ等でPR活動を行いました。また、20年度認定の2事業者について、中小企業診断士のフォローアップ診断実施による事業継続の支援、及び25年度募集に向け、事業のPR向上のためのロゴマーク作成を行いました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 地域商業の活性化を図るため、売上及び集客力の増加が見込まれる事業、地域コミュニティの形成に寄与する事業を計画する商店街に対し、事業費補助金の交付を行いました。 地域特性を生かした商店街づくりをめざす商店街からの依頼に基づき、アドバイザーの派遣(4回)を行いました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 経営革新のための事業に取り組む事業者(展示会等出展事業、産業財産権取得事業)に対し、事業費の補助を行いました。 BCP策定のための研修等を行う事業者に対し、事業費補助が行えるよう、制度の拡充を行うとともに、BCPの有益性についてホームページ等で紹介しました。 中小企業融資、信用保証料補助、利子補給、セーフティネット保証などの中小企業支援事業を引き続き実施しました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> 農産物等のブランド事業は、JAさがみと「鎌倉ブランドマーク」の運用管理についての協議を継続し、また水産物のブランド化については、漁業協同組合と意見交換を行いました。 農業振興施策については、第2期鎌倉市農業振興協議会を2回開催し、担い手育成や直売所をテーマに協議を行い、平成25年3月に報告書を取りまとめました。 地域の農業が抱える後継者不足や農地の遊休化問題の解決を図るための「人・農地プラン(地域マスタープラン)」の作成にあたっては、JAさがみと協議を行い、プランの概略についてとりまとめを行いました。 遊休農地解消や農業者の高齢化対策として、農地利用集積事業に積極的に取り組みました。 農地所有者の相談の場として、JAさがみ、市、農業委員会合同の「農地相談会」を継続して開催しました。 	◎

・腰越漁港改修整備事業は、平成24年度に、防砂堤の築造、既設防砂堤の改良、岸壁の築造及び船揚場等付属工を実施(一部繰越)、工事全体の進捗率は、事業費ベースで約91%となり、県と調整し平成25年度も事業を継続していくことになりました。

・鎌倉地域の漁港建設は、鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップを6回開催し、市民意見の集約を図りました。このワークショップの検討結果、鎌倉漁港対策協議会答申、財政状況等を総合的に検討し、「今後の鎌倉地域の漁業及び漁港にかかる市の考え方」をとりまとめ漁港建設は、着工までの間、漁業者が抱える喫緊の課題の解決に向けた当面の施策を実施していくという市の方針を決定しました。

・水産物の市内への流通等を協議する(仮称)水産業振興協議会の平成25年度設置に向け、漁業者との意見交換を行いました。



前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【市民活動部】

⇒

・市、しいては市民に対してどのような効果をもたらすことを期待して、どの分野の産業振興をどの様に進めているのか、直接その産業にかかわっているステークホルダー以外へのアカウントビリティが全く確保されていない。つまり、ステイクホルダー(意見をもつもの、利害関係者)の視点がまだ十分でないということであり、漁業振興など、地場産業の中でも手厚く支援を受けている業種は、受益者がきわめて限定されている。アカモクなど新しい海産物を資源とした名物、鎌倉に新たに立地している注目の企業など、新たな産業振興支援を考えてはどうか。観光業や「鎌倉やさい」に次ぐ、新しい産業の柱を育て上げて頂きたい。

・評価指標として、商工業者の評価(満足度、納得度)を独自に把握すべきである。

・市民が行きたい商店街、買いたくなる品揃えが基本だと思う。商店街を守るのは市民でもあるので、市民が出かけて購入することも必要である。市民に鎌倉ブランド産業をもっと認識してもらい、商店街の宣伝広報をすることが大事だと思う。

・BCP策定業者に事業費補助を行う取組に注目したい。

・補助金の効果の検証が不明であり、支援を受けた事業者の反応が伝わってこない。

・世界遺産との関連から、どのような産業を世界遺産のまちとして推進できるのかといったビジョンを再構築する必要がある。

・地域特性を生かした商店街づくりをサポートする為のアドバイザーの派遣結果を明らかにして頂きたい。

農業・漁業の第一次産業分野では、地場の産品を市民が手軽に手にできる仕組みづくりを図ると共に、来訪者へもブランド品として提供できる仕組みづくりを支援します。また、鎌倉の地域性を活かし、地域の資源を活用して、創業する事業や新しい商品技術の開発などに対する支援である「商工業元気アップ事業」を更に充実し、鎌倉で新たに事業を展開しようとする企業の支援も含め、産業振興を進めてまいります。

平成23年度に「産業振興に係る市民・事業者意向調査」を実施し、市内の商工業者をはじめとする事業所の実態の把握に努めています。今後は、その調査で要望の高い、行政情報や企業情報が閲覧できるホームページの製作を行うなど、事業者のニーズに即した対応を図ってまいります。

「かまくらお店紹介ホームページ」での店舗紹介や商店街が行う「商店街活性化事業」への助成など、地元商店街が行う事業への支援や広報宣伝を積極的に行っています。

BCP(事業継続計画)の策定など、経営革新に取り組む事業者への支援を継続します。

平成23年度から、「商工業元気アップ事業」に認定された事業及び事業者に対して、フォローアップ診断を実施し、成果の検証と事業の持続的な展開への支援を行っています。

本市を代表する伝統的工芸品「鎌倉彫」を、産業として発展させるため、関係団体と連携して取り組んでいます。

平成24年度は、商店街が活性化するための方策などを検討するため、課題を有する商店街にアドバイザーを派遣しました。アドバイザーからは、先進事例の紹介やイベントの実践方法、若手を巻き込んだ取組活動などについて助言がありました。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【市民活動部】

- ・商工業の充実に向けて「商工業元気アップ事業」の創業部門について、さらなる支援を行う必要があります。
- ・商店街振興に向けて、商店街として負担となっている街路灯維持管理費等の軽減が課題となっており、具体的な支援の充実に取り組む必要があります。
- ・腰越漁港改修整備事業は、平成24年度の竣工予定としていましたが、計画期間内での竣工ができませんでした。
- ・鎌倉地域の漁港建設は、平成24年度に基本構想作成としていましたが、現段階で漁港建設の時期を決定できる状況にはないことから、工程の見直しを行いました。

※未達成の理由<支障となった理由>

- ・腰越漁港改修整備事業は、交付金が予定どおり交付されなかったこと等から工期延長となりました。
- ・鎌倉地域の漁港建設は、市の財政状況、国の交付金制度の変更、市民の合意形成に時間が掛かること等から、工程の見直しを行うことになりました。

<F 今後の展開(取組方針)>

【市民活動部】

- ・地域消費力の向上、地域経済の活性化をめざし、鎌倉商工会議所によるプレミアム商品券事業への支援を行います。
- ・商工業元気アップ事業において、本市の特性や資源を利用した事業の展開を支援するとともに、制度の拡充に取り組みます。
- ・鎌倉の工業活性化をめざし、事業者情報発信・交流サイト開設及び運営を実施します。

- ・腰越漁港改修整備事業は、早期の完成をめざし取り組んでいきます。
- ・鎌倉地域の漁港建設は、当面、鎌倉地域の漁業が抱える喫緊の課題である漁業者の就労現場の改善、漁船の安全確保、台風等の災害対策等の課題の解決に向けた施策の実施に取り組んでいきます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
新規開業届出件数 (+)	市内における新規開業者 (個人・法人)の年間総数	187 事業所	517 事業所	480 事業所	692 事業所	624 事業所	205 事業所	225 事業所
鎌倉ブランドの認 知度(+)	鎌倉ブランドの農水産物を 知っている市民の割合	65.6 %	64.8 %	61.9 %	62.6 %	67.3 %	68 %	71 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	587,813千円	919,164千円	998,003千円	892,336千円	1,064,095千円			
	(国・県)	140,417千円	295,981千円	198,554千円	263,841千円	350,783千円			
	(負担金等)	304,755千円	404,546千円	505,198千円	504,099千円	504,350千円			
	(一般財源)	142,641千円	218,637千円	294,251千円	124,396千円	208,962千円			
	人員配置数	10.8人	10.0人	11.0人	10.9人	10.9人			
	人件費 (B)	102,495千円	91,320千円	99,939千円	96,726千円	88,687千円			
	総事業費(A+B)	690,308千円	1,010,484千円	1,097,942千円	989,062千円	1,152,782千円			
	対前年比		146.4%	108.7%	90.1%	116.6%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・様々な制度により、積極的に各種産業ごとの施策を実施し、支援している。
- ・鎌倉ブランドは認知度が上がっており、市民や観光客のショッピングを楽しませている。充実が期待できるが、市民の満足度は50%で横ばいであるので、地域コミュニティ形成との関連から産業振興を進めることも期待できる方策かもしれない。
- ・「商工業元気アップ事業」等、まだ数はかなり少ないものの、創業・新規事業に取り組む企業の目が生まれつつある。中小企業の創業、事業継続などへの支援を行うことは評価できる。
- ・中小企業診断士やアドバイザーの派遣は評価できる。



課題・提言

- ・産業振興に関する行政事業には顕著な成果が見られない。
- ・観光も含めて、鎌倉市の将来の産業ビジョンを策定し、そのもとで個別産業の支援を行っていくべきである。
- ・ステイクホルダー(意見をもつもの、利害関係者)を意識し、市独自の産業育成や、新しい産業の礎をつくっていくべきである。
- ・腰越漁港の改修整備のみではなく、鎌倉市全体の産業ビジョンを描く必要がある。
- ・「鎌倉市商工業元気アップ事業」について、あまり市民に知られていない。しかし、この事業は今後の鎌倉市の産業振興にとって重要なポイントである。古都鎌倉のイメージと維持について、どう折り合いをつけるかが課題である。
- ・野村総研及びJR跡地での産業振興が必要である。
- ・商店街へのアドバイザーの派遣もよいが、お客が一番のアドバイザーである。その意見・苦情を十分に聴取し、商店の経営に反映させるべきである。
- ・この事業の有益性についてより市民の理解を得るためにも、支援した事業及び事業者へのフォローアップ診断の結果について公表すると共に、より効果的な支援のあり方を検討する等、PDCAサイクルを確立する必要がある。この事業に関する市民へのアカウンタビリティが不足している。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、良好であった。